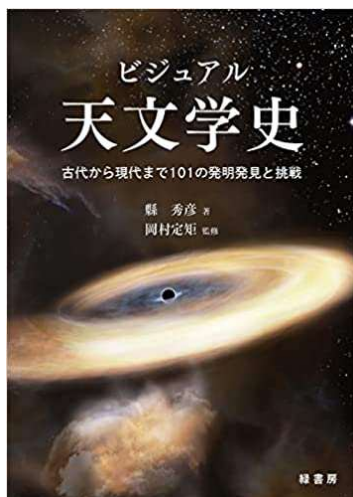


書評

『ビジュアル天文学史：古代から現在まで

101の発明発見と挑戦』 縣 秀彦著

永田美絵（コスモプラネタリウム渋谷チーフ解説員）



縣 秀彦著

出版社名／291 ページ

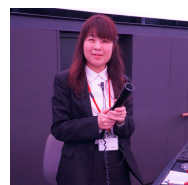
本体 3,800 円＋税／2023 年 4 月発行

天文学史というと、一般的には文字が多く固いイメージではないでしょうか。購入しても本棚に入りっぱなしということも多いと思います。しかしこの書籍は何と心躍るのでしょう。年代順に整理されていて、1 テーマが 2 ページ程で完結されています。好きなテーマを開けば、画像やイラストが多くわかりやすいですし、何より見ていて楽しいのです。

古代の人々が夜空を見上げ、日月食や恒星の動きから暦を作り、やがて地球が宇宙の中心ではないことに気づくまでの I。そこにはまだ望遠鏡も発明されていない頃から人類が知恵によって宇宙の姿を知ろうとした歴史が伝わってきます。やがて 1600 年代からの II は数学によって太陽系の姿を導き出す時代がやってきます。天王星の発見など私が学生時

代興味津々だった歴史です。IIIの 1850 年代以降、宇宙は一気に広がりを見せます。天の川銀河や外側にある銀河の姿が見えてきて、さらに宇宙誕生や膨張する宇宙の姿が現れてきます。IVの 1950 年代からは人工衛星による宇宙探査や人類初の月面到達など、手の届かないと思われていた宇宙が身近になった時代でした。Vの 1980 年代からはニュートリノやブラックホールなど理論上のものが宇宙には存在することがわかってきました。そしてVIの現在。重力波やブラックホールなど私たちは宇宙を見る新しい目を手に入れ、さらに宇宙の謎を解き明かそうとしています。

宇宙を知りたいという想いはいにしえのころから受け継がれ、今私たちは宇宙の姿をおぼろげながら見えています。しかしまだ宇宙はわからないことだらけ。何より宇宙の中の地球は本当に小さくはかなげです。この書籍の最初のページにある「ペイル・ブルー・ドット」は広大な宇宙の中にぽつんと輝く地球の姿です。この書籍は小さな奇跡の星に住む数多くの天文学者が挑んだ宇宙を知る大冒険の歴史なのです。



永田美絵